

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 14 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24330261

研究課題名(和文) 知的障害のある自閉症生徒の社会参加のための教育プログラムの開発

研究課題名(英文) Teaching program for social participation to students with Autistic and Intellectual Disabilities

研究代表者

渡部 匡隆 (WATANABE, Masataka)

横浜国立大学・教育人間科学部・教授

研究者番号：30241764

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 9,500,000円

研究成果の概要(和文)：知的障害のある自閉症生徒の社会参加に必要な支援手法を開発した。第1が、知的障害のある自閉症生徒の社会参加に必要な機能的な指導目標を選定するためのアセスメント法の開発、第2に地域社会と協働して般化を計画的に指導するための指導方法の開発、第3が教育プログラムを実施する指導体制と教師の専門性に関する研究である。それらから、知的障害のある自閉症生徒の社会参加を目指した教育プログラムを明らかにできた。

研究成果の概要(英文)：In the present study, I shall focus on the three point in particular for development of teaching social participation to students with Autistic and Intellectual Disabilities. First, Assessment methodology to selection for functional teaching targets need to social participation of students with Autistic and Intellectual Disabilities. Second, Teaching methodology to generalization in community settings and building partnership between the community resources and the special support school. Third, Teaching system and specialization of teacher to teach the community skills for students with Autistic and Intellectual Disabilities. This research has revealed teaching program for social participation to students with Autistic and Intellectual Disabilities.

研究分野：心身障害学

キーワード：自閉症 知的障害 社会参加 教育プログラム 指導方法

1. 研究開始当初の背景

特別支援教育では、知的障害と自閉症を併せ有する児童生徒への教育が重要なテーマとされ、知的障害と自閉症を併せ有する児童生徒に対し、この2つの障害の違いを考慮しつつ、障害の特性に応じた対応について研究することが強調された(「21世紀の特殊教育の在り方について関する調査研究協力者会議」平成13年1月;「特別支援教育を推進するための制度の在り方について(答申)」平成17年12月)。しかし、日本初の自閉症学校とした筑波大学附属久里浜特別支援学校では、自閉症児への指導プログラムの開発に取り組んできたが、当該学校には中・高等部はなく小学部段階でとどまっている。また、文部科学省では、平成20~21年度において特別支援教育総合推進事業の中で、自閉症の特性に応じた教育課程の編成に関する実践的研究に着手しているものの、その研究の推進が滞っている現状がある。

各都道府県や政令市のレベルでも、自閉症教育の推進についてのさまざまな動きがある。例えば、横浜市では平成21年12月に「特別支援教育を推進するための基本指針」を策定し、平成22年度には、今後の横浜市における自閉症教育の推進に関する具体的な提言されたが、具体的な検討には着手されていない。また、東京都教育委員会は、知的障害を伴う自閉症児の特性に応じた教育課程の開発に取り組んでいるが、小学部段階への取り組みが現状である。

平成23年8月の改正障害者基本法では、その付帯決議(衆参両議院)において、「国及び地方公共団体は、発達障害児について、将来の自立と社会参加のため、特性や能力に応じた中等・高等教育を受けられるように必要な環境整備を図ること」とされており、改正障害者基本法のねらいや、特別支援教育の中で強く要請された自閉症の特性に応じた教育について、中学部・高等部段階における具体的な教育プログラムは検討されていないのが現状である。

申請者は、これまで知的障害のある自閉症の児童生徒を対象に社会参加・社会的自立に必要なスキル開発の研究を行ってきた(渡部ら, 1990; 渡部ら, 1993; 渡部ら, 1999; 渡部, 2002など)。研究では、指導されたスキルが実際の社会の中で発揮・定着されるかどうか、すなわち般化・維持のための指導方法の開発が中心的なテーマとされた。研究の結果、身辺処理や健康管理、対人関係、家庭、地域、就労、余暇など社会生活に必要な諸領域において、指導されたスキルの般化・維持の実現と、その指導方法や指導上の配慮事項について明らかにすることができた。

以上の、研究成果をもとに、中学部、高等部段階の知的障害のある自閉症の生徒が在籍する知的障害特別支援学校と協働実践を進めることによって本研究のねらいを達成できると考えた。

2. 研究の目的

知的障害のある自閉症児の社会参加・社会的自立を実現するためには、自閉症の特性である指導成果の般化・維持の困難性が大きな課題となる。そのため、本研究では、以下の点に重点をおいて研究開発を進めてきた。

- 1) 知的障害のある自閉症児に機能的な指導目標を設定するためのアセスメント手法
- 2) 指導目標を地域社会において計画的に般化するための指導方法
- 3) 教育プログラムを実施する教師の指導体制と専門性の確保

以上の研究により、知的障害のある自閉症児の生きる力とキャリア発達を支援するための中学部・高等部段階での教育プログラムを開発することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 知的障害のある自閉症児に機能的な指導目標を設定するためのアセスメント手法

東京都と川崎市にある2校の公立知的障害特別支援学校中学部と協働して実践的に研究開発を行った。

知的障害のある自閉症児の生活実態を明らかにするために、中学部の在籍する生徒に対して生活調査アンケートを実施した。生徒の1週間の生活の情報、具体的には、生徒の平日や休日の生活の様子、基本的な生活スキルや自由時間の使い方、余暇活動、家族の協力と役割などを保護者の協力により実施した。生徒が1週間の生活の中で、いつ、どこで、だれと、どのように社会資源を利用しているかを具体的に把握すると共に生徒の現在及び将来の社会参加を見据え、授業で学んだことを生徒の生活場面のどこで生かすことができるかを明確にして、授業計画を策定するため、担任は生活調査アンケートから得られた情報を整理し、生活地図として図式化した。

生活調査アンケートを実態把握として活用することで、機能的な指導目標の設定が可能となるか、また、副次的にどのような効果もたえられるか把握した。

(2) 指導目標を地域社会において計画的に般化するための指導方法

研究(1)と同じ2校の知的障害特別支援学校中学部と協働して、道路の安全な歩行、交通機関の利用、スーパーマーケットでの買い物、そして交通安全センターの利用の4事例をもとに、地域社会において計画的に般化していくための指導方法について研究した。

指導方法の開発にあたっては、知的障害のある自閉症児の般化・維持の困難性から、大きく2つの指導方略からアプローチした。

まず、課題分析にもとづく課題整理表の作成である。スーパーマーケットでの買い物を例にすると、単元内容が確定したところで、教室内でシミュレーション授業を実施し、買い物やヘルプサインを出す活動の一連の流れの中で、生徒の課題となる標的行動を明確

にするために課題分析を行った。そして、当該のスキルの遂行に必要な行動項目を時系列で記載し、達成か未達成かを記入する項目を設け、どこに課題があるのかを明確にした。また、学校の支援として、指導者の手立てをそれぞれの項目ごとに設けた。指導者の手立てが適切であったかどうかを分析したり、支援内容がどのような意味を持つのかを考えたりすることができるように工夫した。

加えて、課題分析表の手立ての項目に学校の支援のほかに、地域の支援、家庭の支援の項目を追加し、課題整理表を作成した。学校で行っている支援を整理して、家庭に依頼できることや、どの項目であれば地域に依頼できるかなどを検討できるようにした。

もう1つのアプローチが、地域と協働関係づくりと実地指導を軸とした繰り返しのある学習機会の設定である。具体的に、3つの指導方法を実施した。第1に、授業協力の依頼および知的障害のある自閉症児の社会資源利用の意義説明と理解啓発、第2に、実地指導における支援内容と方法の伝達、第3に、実地指導を軸とした繰り返しのある学習機会の設定を行った。

スーパーマーケットでの買い物为例にすると、担任が利用する店舗を対象となる知的障害のある自閉症児の特性を伝え、求められる支援内容や方法について説明した。あわせて、当該店舗の状況についても情報収集を行い、学校と当該店舗で対象となる生徒に対して、何をどこまで支援できるのか具体的な協議を実施した。そして、学校近くの店舗を利用した実地指導を軸に、教室での指導、生徒の自宅近くの日常的に家族で利用する店舗での学習を繰り返し行い、できるだけ多くの学習機会を確保するようにした。

具体的には、特別支援学校の教室場面でシミュレーション指導を行った。そして、計数版で硬貨と必要な枚数を具体的に提示すれば、硬貨を正確に取り出すことができるように指導した。次に、担任は、計数版を用意し、計数版を用いた支払いの意義や具体的な支援内容と方法を保護者、学校近くの店舗、生徒の自宅近くの店舗に伝え、利用を要請しました。保護者には、定期的に自宅近くの店舗で計数版を用いて買い物を行ってもらうように協力を依頼した。そして、それぞれの店舗で生徒が計数版を利用して買い物するように取り組んだ。

協働した授業づくりを実施するために、学校近くの店舗では打ち合わせを6回、実地指導を15回、自宅近くの店舗では打ち合わせを3回、保護者との利用を11回、担任の付添いによる実地指導を2回実施した。

加えて、指導の成果を確かめるため、関係機関に事後アンケートを実施した。質問は10項目で、指導における生徒の行動の変化、計数版などの利用に関する手続き、協働した授業や地域参加の意義について社会的妥当性を評価した。

(3)教育プログラムを実施する教師の指導体制と専門性の確保

知的障害のある自閉症児の特性に応じた指導体制の開発に関する研究は、Y市立知的障害特別支援学校において学部および学校全体で共通理解を持って取り組むための指導体制について検討した。

また、知的障害のある自閉症児に教育プログラムを提供する教師の専門性の確保については、自閉症教育に先進的に取り組んでいるアメリカのミネソタ州とカリフォルニア州の知的障害のある自閉症児が在籍する学校への視察および聞き取り調査、および管轄する教育省で聞き取り調査を行った。

4. 研究成果

(1)知的障害のある自閉症児に機能的な指導目標を設定するためのアセスメント手法

2校の実践から、生活調査アンケートを活用して知的障害のある自閉症児の生活実態を把握することで、社会参加に必要な指導目標の抽出が可能となることが明らかになった。そして、般化の視点を取り入れた授業計画の作成も可能になることが確認された。また、知的障害のある自閉症児の社会参加に必要な指導目標が具体化されることで、指導内容や指導体制の改善が促進されることも確認された。

(2)指導目標を地域社会において計画的に般化するための指導方法

東京都と川崎市の2校の知的障害特別支援学校中学部での4つの教育実践から、般化の視点を取り入れた単元計画の策定をもとに、課題分析にもとづく課題整理表の活用と地域との協働関係による実地指導を軸とした繰り返しのある学習機会の設定を設定することで、知的障害のある自閉症児の豊かな社会生活を実現することが可能になることが明らかにされた。

具体的に、知的障害のある自閉症の生徒へのスーパーマーケットでの買い物指導の実践では、対象となる生徒に、利用できるお店の数や利用回数が増加した。保護者が中心であったレジでのやりとりでは、お店の支援と計数版の使用により一人でできる部分が増えた。また、お店の人とのかかわりを増やすことができた。買い物は、生徒にとって有意義で期待感のもてる活動であり、買ってきたお菓子を家族で楽しく食べる機会となった。本教育実践により、家族を含めた本人の生活の質の向上をもたらすことが可能になったと考えられた。

一方、本アプローチによる教育実践による地域の変化を確認することができた。学校近くのスーパーマーケットでは、毎回特設レジが設置され、決まったサービス介護士が対応することになった。そして、指導を繰り返すごとに、レジでのやりとりがスムーズになり、生徒に応じた支援が提供されることになった。また、自宅近くのドラッグストアでは、

毎週決まった曜日に、決まった店員にレジの対応が行われるように工夫された。そして、当該の店舗の店員から、「当該の生徒は、調子の良い時と悪い時があります。でも、調子の悪い時も、100円カード2枚をバーに載せて、こちらが1、2と手で差して数えると、ちゃんとお金をだせます。違うよと言うと、わかってやり直しています。」と、店員の対象生徒への理解が深まるとともに、お店での支援力が高まり、対象生徒に指導したスキルの般化を促すことになった。

実地指導では、社会的・物理的環境の違いによる般化の難しさが生じるようになった。店舗毎に異なるレジシステム、対応する店員の方や支援の違い等である。それらの環境の違いの中で、知的障害のある自閉症生徒の般化の困難性を軽減するためには、何よりも対象生徒や指導に対する地域の方々の理解と支援的な態度の育成が不可欠であった。そのため、実地指導を軸とした授業を繰り返し実施した、対象生徒の学習機会を増やすとともに、地域社会での支援の成果と課題を、担任を中心に保護者、学校近くの店舗、自宅近くの店舗にフィードバックすることで、関係機関が、今ある人的・物的環境を最大限活かせるような支援を目指して取り組む機会を増やし、協働関係の構築と継続した取り組みを可能にした。

加えて、特別支援学校の教育活動そのものに変化をもたらした。本研究では、知的障害のある自閉症児の豊かな社会参加を目指して、学校が家庭、地域と協働関係を構築し、生徒の生きる力の実現にむけて、役割と責任を分担し、計画的に指導・支援を行ってきた。その中で、豊かな社会参加を目指した授業づくりとは、生徒だけではなく、家庭や地域をも変化させていくことも含む取り組みであること、生徒の身近な周囲の支援の力を高めていくことで、生徒自身の発揮できる力も高めることができることが示唆された。

対象生徒を生活において、学校は地域の一部です。生徒の生活の幅が広がり始める中学部・高等部段階において、学校だけで指導を完結させず、本人・家族・関係機関のネットワークの中に学校を位置づけ、学校が地域との相互作用の中で協働して指導に取り組むことで、知的障害のある自閉症児の生きる力を高めていくことができると考えられる。

(3)教育プログラムを実施する教師の指導体制と専門性の確保

Y市立知的障害特別支援学校において、知的障害のある自閉症児の特性に応じた指導を学部および学校全体で共通理解を持って取り組むための指導体制について検討した結果、校内でのスモールグループにより授業や学校生活の工夫を行い、定期的にその振り返りと改善の機会をもつことで、効果的な指導体制が可能となることが明らかになった。

また、アメリカ2州の自閉症教育の視察調査の結果、知的障害のある自閉症児の社会参

加を実現するため、中学部から高等部にかけて地域に根ざした移行教育プログラムを重点に指導していること、また、知的障害のある自閉症児への専門的な教育を実施するため、自閉症の教育領域に関する特別支援学校教諭免許状を授与していることに加えて、プログラムスペシャリストという自閉症教育の専門家を養成し、学校内で実施する自閉症教育への専門性の管理を行っていることが確認された。

<引用文献>

渡部匡隆・山本淳一・小林重雄(1990)発達障害児のサバイバルスキル訓練 - 買物スキルの課題分析とその形成技法の検討 - . 特殊教育学研究, 28(1), 21-31.

渡部匡隆・上松武・小林重雄(1993)自閉症生徒へのコミュニティスキル訓練 - 自己記録法を含むバス乗車指導技法の検討 - . 特殊教育学研究, 31(3), 27-35.

渡部匡隆・山口とし江・上松武・小林重雄(1999)自閉症児童における代表例教授法を用いた支払いスキルの形成 - 複数店舗への般化の検討 - . 特殊教育学研究, 36(4), 59-69.

渡部匡隆(2002)自閉症生徒への移動スキルの形成と地域の人々のかかわり. 行動療法研究, 28(2), 83-95.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計8件)

岡村章司・渡部匡隆(2015)広汎性発達障害のある生徒の暴力場面の振り返りを促す支援方法の検討. 特殊教育学研究, 52(3), 191-204.

朝岡寛史・岡村章司・渡部匡隆(2015)自閉症児における授与動詞構文の指導 - 自己動作を用いた指導方法の効果の検討 - . 自閉症スペクトラム研究, 12(2), 5-12.

岡村章司・渡部匡隆(2015)広汎性発達障害児の保護者が示す子どもを叩く行動の変容 - 行動記録を用いたカウンセリングの効果の検討 - . 特殊教育学研究, 52(5), 369-380.

岡村章司(2015)自閉症スペクトラム教育の現状. かがやき(日本自閉症協会機関誌), 11, 2-3.

大河内綾子(2015)豊かな社会参加につながる授業づくり - 地域と協働した授業づくりをめざして - . かがやき(日本自閉症協会機関誌), 11, 13-16.

渡部匡隆(2015)自閉症スペクトラム教育の今後の課題. かがやき(日本自閉症協会機関誌), 11, 17-20.

朝岡寛史・渡邊美紀・岡村章司・渡部匡隆(2014)自閉症児の社会的理解の促進に関する研究 - ロールプレイを用いた支援方法の検討 - . 自閉症スペクトラム研究, 11(2), 63-72.

朝岡寛史・熊谷正美・石坂努・渡部匡隆(2013)自閉性障害のある生徒の社会的相互

作用の形成・自閉症スペクトラム研究実践報告集，4，27-33．2013．

〔学会発表〕(計 10 件)

渡部匡隆・石坂務・大木信吾・川島慶子・深澤しのぶ・熊谷正美・渡邊美紀・岡村章司 (2015)自閉症スペクトラム児への人間関係形成プログラムの成果と課題．日本LD学会第23回大会自主シンポジウム．2014年11月23日～24日．和歌山大学．

志賀利一・安部陽子・諏訪利明・中山清司・内山登紀夫・梅永雄二・渡部匡隆 (2014)自閉症スペクトラムのある人のトータルサポートをめざして．日本自閉症スペクトラム学会第12回研究大会企画シンポジウム．2014年8月18日～19日．横浜国立大学．

石坂務・朝岡寛史・渡部匡隆 (2014)自閉症青年への過去の出来事に関する状況記述行動の支援とその効果の検討．日本自閉症スペクトラム学会第12回研究大会ポスター発表．2014年8月18日～19日．横浜国立大学．

朝岡寛史・渡邊美紀・岡村章司・渡部匡隆 (2014)自閉症児の社会的理解の促進に関する研究 - ロールプレイを用いた支援方法の検討 - ．日本自閉症スペクトラム学会第12回研究大会ポスター発表．2014年8月18日～19日．横浜国立大学．

渡部匡隆・市川裕二・柴田いつか・加藤智子・小笠原恵 (2013)知的障害のある自閉症児の指導内容の充実をめざして．日本特殊教育学会第50回大会自主シンポジウム．2012年9月28日～29日．筑波大学．

岡村章司・渡部匡隆・川島慶子・深澤しのぶ・渡邊美紀・熊谷正美・渡部匡隆・小林重雄 (2013)高機能自閉症スペクトラム障害児の治療教育プログラム(2) - 間接支援プログラムの検討 - ．日本特殊教育学会第50回大会自主シンポジウム．2012年9月28日～30日．筑波大学．

岡村章司・渡部匡隆 (2013)アスペルガー障害学生に対する大学適応への支援の検討．日本特殊教育学会第50回大会ポスター発表．2012年9月28日～30日．筑波大学．

朝岡寛史・渡部匡隆 (2013)広汎性発達障害のある生徒の社会的相互作用の形成．日本特殊教育学会第50回大会ポスター発表．2012年9月28日～30日．筑波大学．

深澤しのぶ・渡邊美紀・渡部匡隆 (2013)アスペルガー障害のある高校生の自己理解の支援．日本特殊教育学会第50回大会ポスター発表．2012年9月28日～30日．筑波大学．

石坂務・渡部匡隆・岡村章司 (2013)自閉症成人の生活を豊かにするための行動記録及び家族支援の検討．日本自閉症スペクトラム学会第11回研究大会ポスター発表．2012年8月24日～25日．筑波大学．

〔図書〕(計 10 件)

東京都立矢口特別支援学校 (2015)平成26年度矢口特別支援学校研究紀要．東京都立矢口特別支援学校全国公開研究会資料．

渡部匡隆 (2015)自閉症スペクトラム障害．梅永雄二・島田博祐 (編著)障害児者の教育と生涯発達支援．第3版．北樹出版．137-151．
横浜市「自閉症教育の手引き」策定委員会 (2014)自閉症教育の手引き．横浜市教育委員会．

東京都立矢口特別支援学校 (2014)平成25年度矢口特別支援学校研究紀要．東京都立矢口特別支援学校全国公開研究会資料．

渡部匡隆・岡村章司 (編著) (2014)自閉症スペクトラム児の人間関係形成プログラム．学苑社．

渡部匡隆 (2014)小学生段階の特性．樋口一宗・丹野哲也 (監修)全国特別支援学校知的障害教育校長会．自閉症スペクトラム児の教育と支援．東洋館出版．80-81．

渡部匡隆 (2014)アセスメント．樋口一宗・丹野哲也 (監修)全国特別支援学校知的障害教育校長会．自閉症スペクトラム児の教育と支援．東洋館出版．82-83．

渡部匡隆 (2014)自閉症スペクトラムの理解と指導・支援．柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子 (編)改訂版はじめての特別支援教育．有斐閣．115-128．

東京都教育委員会 (2014)小・中学校の特別支援教育の推進のために．東京都教育庁義務教育特別支援教育課．

東京都立矢口特別支援学校 (2013)平成24年度矢口特別支援学校研究紀要．東京都立矢口特別支援学校全国公開研究会資料．

6．研究組織

(1)研究代表者

渡部 匡隆 (WATANABE, Masataka)
横浜国立大学・教育人間科学部・教授
研究者番号：30241764

(2)研究協力者

渡邊 美紀 (WATANABE, Miki)
横浜市立港南台ひの特別支援学校・教諭

石坂 務 (ISHIZAKA Tsutomu)
国立特別支援教育総合研究所・主任研究員

深澤 しのぶ (FUKAZAWA, Shinobu)
伊勢原市立中沢中学校・教頭

熊谷 正美 (KUMAGAI, Masami)
横浜市市場中学校・教諭

朝岡 寛史 (ASAOKA, Hiroshi)
筑波大学大学院障害科学専攻・大学院生

岡村 章司 (OKAMURA, SHOJI)
兵庫教育大学大学院・准教授

川島 慶子 (KAWASHIMA, Keiko)
福島大学・人間発達文化学類・助教

鬼木 勝 (ONIKI, Masaru)
横浜市立美しが丘中学校・教諭

太田千佳子 (OTA, Chikako)
北海道鶴野支援学校・教頭

大木信吾 (OOKI, Shingo)
社会福祉法人くるみ学園・職員